

救急科専門医研修プログラムの紹介

埼玉医科大学病院救急科

本研修プログラムの目的

当院の救急医療研修は内科救急(疾病救急)や外傷やマイナー救急と言われる分野に加え臨床中毒、緩和医療を含めたあらゆる病態の患者に対応できる「Emergency Physician」の育成を目的とする。

救急医療は、国や地域によってそれぞれ異なった方式で展開されているが、本邦においては従来外傷・重症患者の救命救急医療を中心として発展してきた。しかし高齢社会の到来や道路交通法の改正による重症外傷患者の減少などから救急医療の疾病構造が変化し、従来の救急疾患に加え common diseases に対する初期対応を求められる機会が多くなってきている。当院は総合病院である一方で僅か2.5Kmの距離にある埼玉医大国際医療センターが心臓病センター・脳卒中センターとして心疾患・脳卒中の診療を行うほか癌の専門治療も担当し、重症外傷への対応は同院救命救急センターが行っている。これは二次救急病院である当院救急科の役割とは相補的な関係となっており、それぞれの特徴を生かした診療が行われている。

当院での救急研修は**初期診断・初期診療(プライマリケア)**を主眼とし、心疾患や脳卒中についても診断からリスク評価、初期治療に続き disposition (帰宅、経過観察、転院)の判断・決定も救急医が行っている。

当院救急科研修の大きな特徴は**広い領域の傷病について様々な重症度の病態を経験し、それらに対する初期対応の技術を身に付けられること**である、これは将来救急医だけに限らず他の診療科や地域医療を希望する医師にとっても非常に価値あるスキルとなるであろう。

本研修プログラムによる専門研修により、以下の能力を備えることを目標とする。

- 1) 様々な緊急度の疾病／外傷の救急患者に、適切な初期診療(プライマリケア)を行える。
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断(トリアージ)できる。
- 3) 中毒患者への初期治療および集中治療が行える。
- 4) 急性/慢性、がん/非がん、年齢を問わず「ロコモ」や「フレイル」を評価して、その予防を行い精神的、肉体的苦痛を取り除くことができる。
- 5) 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めること(医療連携)ができる。
- 6) 必要に応じて病院前診療(プレホスピタルケア)を行える。
- 7) 救急診療のに関する臨床研究および学会・学術雑誌での発表を通して学習し救急診療に関する教育指導が行える。
- 8) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行い救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。

救急科専門研修の実際

① 臨床現場での学習

- 1) 救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンス・勉強会への参加 など

② 臨床現場を離れた学習(off-the-job training course)

学術集会、セミナー、講演会およびJATEC、JPTECコース(参加費用は研修プログラムで負担)。救急科領域で必須のICLS(AHA/ACLS を含む)コースおよびインストラクターコースを履修できるように配慮する。

また本専門研修プログラムによる救急科専門医取得後には、サブスペシャリティ領域である「集中治療医学領域専門研修プログラム」に進むことや、救急科関連領域の専門医取得を目指す臨床研修や医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能。

研修施設群

本プログラムは、研修施設要件を満たした下記施設において行う。

1. 埼玉医科大学病院(基幹研修施設)

- 1) 救急科領域の病院機能: 特定機能病院、二次救急医療施設(救急センター・臨床中毒センター)、災害拠点病院、ドクターカー(ワークステーション)配備
- 2) 指導者: 救急科指導医4名、救急科専門医4名、集中治療専門医1名、腎臓専門医1名、内科認定医・指導医1名、専門研修指導医4名、その他の専門診療科医師(外科1名、精神科1名)
- 3) 救急車搬送件数 4,307件/年、救急外来受診者数 18,864人/年(2019年実績)
- 4) 研修部門:
 - 救急センター・臨床中毒センター(ER診療)、救急科病棟(入院診療)、ICU(集中治療)
- 5) 研修領域:
 - 病院前救急医療(ドクターカー)
 - 心肺蘇生法・救急心血管治療、ショックに対する診療
 - 中毒診療(臨床中毒センター)
 - 精神科疾患合併患者の診療
 - 小児および特殊救急に対する診療
 - 災害医療
 - 救急医療と医事法制
- 6) 研修内容:
 - 救急外来における診療(ER)
 - 臨床研究、専門医の指導下に毒物の機器分析(中毒センター研究室)
 - 大学基礎医学講座と共同での基礎研究が可能。
- 7) 基本給: 1年目:26万円/月、2年目:27万円/月、3年目:28万円、当直・休日日勤手当:

1万円／回

- 8) 勤務時間: 8:15-17:30
- 9) 社会保険: 労働保険、健康保険、厚生年金保険、雇用保険を適用
- 10) 宿舎: なし
- 11) 専攻医室: 専攻医専用の設備はないが、救急センター・中毒センター医局内に個人スペース(机、椅子、棚、ロッカー)が充てられる。
- 12) 健康管理: 年1回。その他各種予防接種。
- 13) 医師賠償責任保険:
- 14) 臨床現場を離れた研修活動: 日本救急医学会および地方会、日本臨床救急医学会、日本集中治療医学会および地方会、日本外傷学会、日本中毒学会および東日本地方会、日本熱傷学会、日本集団災害医学会、日本病院前診療医学会など救急医学関連医学会の学術集會に1回以上の参加し報告を行う。
年2回までの参加費ならびに論文投稿費用は全額支給される。

2.さいたま赤十字病院(専門研修連携施設)

3. 埼玉石心会病院(地域枠)

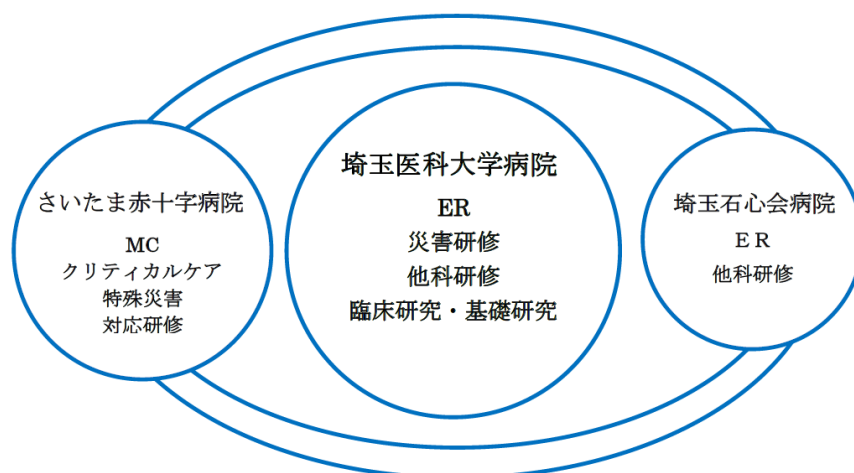
4. 秩父病院(地域枠)

5. 岡村記念クリニック(地域枠)

本プログラムにおける研修施設群の相互関係

下記4つのモジュールが研修プログラムの基本となり、基幹病院と連携病院でそれぞれを担当する。

- 1) クリティカルケア12か月
- 2) ER研修12か月
- 3) 初期臨床研修経験と専門医取得以降の修練希望領域に基づいた他科研修6か月
- 4) クリティカルケアまたはER研修6か月(オプションとして特殊災害研修最大3か月まで、小児科・精神科・内視鏡等の他科研修最大3か月までを含む)



研修スケジュールの例(専攻医 3 名)

施設名	指導医数	主たる研修内容	1 年目	2 年目	3 年目
埼玉医科大学病院	3	ER、MC・災害研修、他科研修	A	C	B 小 B 精 B 内
埼玉赤十字病院	3	クリティカルケア、特殊災害対応研修	B	A	C
石心会病院	1	ER、他科研修	C 麻 C 外 C 整	B	A 麻 A 外 A 整

A~C: 専攻医、小: 小児科、精: 精神科、内: 内視鏡
 麻: 麻酔科、外: 外科、整: 整形外科、放: 放射線科

連絡先:

プログラム責任者: 埼玉医科大学病院救急科 准教授 高平修二(たかひら しゅうじ)

メールアドレス: takahira@saitama-med.ac.jp